



○実習報告会

1 年生が取り組んでいた施設実習が 2 月末に終了しました。このたび報告会を行いました。そのお知らせをいたします。まずは発表の中から印象に残ったものを紹介します。全員のものではありません、代表的なものです。文面は微妙に変えています。

実習前は不安な気持ちがありましたが、想像していたよりもアットホームな感じを受けました。自分の対応によって話を聞いてくれたり、聞いてくれなかったりという難しさも学びました。利用者さんの障害のことを知り、多くのことを考えながら適切な支援を行う大切さを知りました。発達に心配のある子どもさんの支援に必要なことをメモする工夫も知りました。ときには支援・指導だけでなく、待つ・見守る姿勢も大切であるということも学びました。自分のしていることが自己満足になっているのではないかという反省もしました。子どもの背景にあるものも理解したうえで対応しなければならないということが分かりました。



1 か月前には使わなかったであろうという配慮のある言葉遣いができる発表もたくさんありました。短い実習で学生たちは大きく成長しました。そういうことに感動しながら私は聞いていました。発表が終わった後、あいさつをする場面があったので、次のようなことを伝えました。

・学校でみんなと一緒に学ぶということは、今日のように自分の経験以外のことも吸収できます。・しかし聞いたことで分かった気にならないようにしましょう。(頭でっかちにならないように)・これから皆さんが卒業するまでの期間はすでに 1 年を切っています。世間では就職活動も始まりました。皆さんも就職先を検討する時期になりました。・これからの時間を大切にして広い視野で深く、積極的に学んでいってください。

修了式など

卒業式も明日に迫り、いろいろと感慨深い思いを現在もっています。先日から相次いで修了式もありました。岩国駅前のビルで行っていた英語力習得科と本校で行っていた介護実務サービス科です。どちらも 4 か月という短い期間でしたが、皆さんやり遂げたというようなさわやかな顔をされていました。修了式であいさつをしましたが、次のようなことを伝えてみました。

「私には 1～2 歳の孫がいます。幼い子どもはなにごとすべて初めての体験です。できなかったことができるようになったとき、ものすごくうれしい顔をします。今の皆さんはそれと同じような晴れやかな顔をしていらっしゃいます。身につけられた知識や技術をそれぞれの新しい場で生かして充実した生活を送られることを祈っています。(要約)」

世間では寒い冬が過ぎようとしています。梅はすでに咲きました。桜などさまざまな植物が芽吹かせようと待ち構えている今の季節、いろいろな場面で前向きな気持ちにさせていただいている私です。